

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動支援】

あつまれ ECO キッズ！ 活動報告書

社会科教育専修 3 回生 根本 優

1. 企画名 「つくってあそぼう～牛乳パック de え工作～」
2. 日時 2021 年 12 月 18 日（土）11：15～15：00
3. 場所 ならまちセンター 2 階 市民ホールロビー
4. 参加学生 学部 4 回生 西條 秀哉（国語教育専修）
学部 3 回生 岩城 雄大（教育学専修）、根本 優（社会科教育専修）
岡本 真実（社会科教育専修）
学部 2 回生 木下 結等（教育学専修）、川田 大登（国語教育専修）
川口 綾菜（英語教育専修）、大竹 玲央（文化遺産教育専修）
学部 1 回生 実久 峰希央（特別支援教育専修）

5. 概要

2021 年 12 月 18 日、ならまちセンターにて、「あつまれ ECO キッズ」が開催された。本活動は、各団体が ECO に関する展示やプログラムを行い、子どもを中心とする参加者に ECO について考えてもらう活動である。奈良教育大学ユネスコクラブでは、「つくってあそぼう～牛乳パック de え工作」をテーマに掲げ、牛乳パックと輪ゴムを使って作る「パッチンカエル」と、牛乳パックをとタコ糸を使って作る「ブンブンゴマ」を実際に子どもに工作してもらい、遊ぶというプログラム内容を実施した。



ブンブンゴマの回し方を熱心に教える学生

6. 参加学生の学び・感想

子どもと関わる機会として貴重な経験であり、メンバーの中で最高学年であったため、自分の学びだけではなく後輩たちが積極的に子どもと関われるように尽力した。工作のブースには多くの子どもたちが参加し、学生は関わり方や教え方、子どもたちはおもちゃの作り方や環境のことについて学ぶことができた。事前に用意した動画の効果もあり、子どもたちの保護者も待っている間に動画を見て環境のことを知ることができるとてもよい環境だった。

西條 秀哉（国語教育専修）

児童とともに ECO を感じておもちゃを作るという活動ができた。ブンブンゴマとパッチンカエるを作り、家に帰ってからも遊べるように工夫していた。ブンブンゴマの回し方を教えることができて面白かった。遊びは新しいものを買うだけでなく、様々なものを有効活用して工夫を加えて作り出すものでもあるということを改めて感じた。これから遊びの伝道師になれるように努めていきたい。

岩城 雄大（教育学専修）

夢中になって遊んでいる子どもが多くいたことが印象的だった。中には、「牛乳パックを再利用でき

ているね。」と自ら気づいている子どもがいて非常に驚かされた。身の回りにある使わなくなったものでも、工夫することで、楽しく遊べるおもちゃに変身することに気づいてもらえてうれしかったし、自分自身も改めて気づくことができた。

根本 優（社会科教育専修）

子どもたちは自分なりに工夫しながら作品を完成させていたのが印象的だった。また、昔ながらの遊びであったことから子どもだけでなく、大人も懐かしみながら楽しんでいたため、家庭での会話が増えていくきっかけになった企画だと感じた。

岡本 真実（社会科教育専修）

牛乳パックで作ったブンブンゴマとパッチンカエルのおもちゃ作りのブースでは、多くの子どもたちが思考錯誤しながら、こうしたらもっとパッチンかえるが飛ぶのではないかと、ブンブンゴマがもっと早く回るのではないかとということについて考えながら楽しく遊んでいた。また、紙飛行機飛ばし大会の司会・進行も先輩方に助けていただきながらやらせていただき、子どもたちにとっても私自身にとってもとてもいい経験が出来た一日だった。

木下 結等（教育学専修）

今年のECOキッズは、2年ぶりに対面で行われ、私は初めて対面でのエコキッズに参加した。

おもちゃ作りでは、つくってくれた児童の中に、「学校でもやってみよー」や、「家でもっと上手く作りたい」と話す者がいて、エコな遊びの広がりを感じ、嬉しかった。また、長い時間をかけて作った動画を子どもや保護者に見ていただき、達成感があった。

とてもよい経験となったので、また機会があれば参加したい。

川田 大登（国語教育専修）

私は主にブンブンゴマ作りのサポートをした。作り方は簡単だったが、子どもたちは「回すとどんな模様になるのだろう」、「どうすれば回しやすくなるのだろう」と主体的に考え工夫していた。中には、牛乳パックに開ける穴の位置によって回しやすさが変わると発見した子どもがおり、大変驚いた。また、子どもたちにとってブンブンゴマを回すことは少し難しかったようだが、家族や友達と教え合いながら真剣に取り組んでいた。保護者の方々が「昔あんなにやったのにな」、「昔はできたんだよ」と夢中になって子どもたちと張り合う場面も見られ、世代を越えて繋がる良いきっかけになったと感じた。今回の企画を通して、子どもも大人も昔ながらのエコなおもちゃの楽しさを知り、身近な素材を活用する可能性を見いだせたのではないだろうか。

川口 綾菜（英語教育専修）

パッチンカエルやブンブンゴマなどの懐かしい遊びで子供たちも満足そうで良かったと思った。カエルが飛ばないことがあっても、工夫して飛ばそうとしていた子が印象的だった。またカエルのイラストだけではなく、子供たちが思い思いのイラストを描いていて、子供の発想力は本当に自由だなと感じた。次回もこのような企画があれば、参加したいと思った。

大竹 玲央（文化遺産教育専修）

今回、初めてECOキッズに参加させていただいた。とても貴重な経験になったと感じている。ECOキッズというイベントで子どもに向けたブースを作るのも、そこで子どもたちにむかし遊びを教えるのも初めてで、イベントを通して子どもと触れ合うことがどんな事なのか肌で感じて学ぶことができた。子どもたちや、その保護者が作ったおもちゃで遊びながら、私たちの作ったエコについての動画を見ている様子を見て、企画を頑張って進めた甲斐があったなと感じ、とても満足した。

実久 峰希央（特別支援教育専修）